

私立大学図書館協会 2005年度第2回常任幹事会議事要録

日 時 2005年12月2日(金) 午後2時～午後5時
場 所 駒澤大学会館246 6階会議室
出席者 出席者名簿(p.8)参照

議事に先立ち、会長校挨拶の後、出席者の自己紹介が行われた。議事進行は、会長校松井賢一龍谷大学学術情報センター長が担当した。

また、会長校より、協議事項終了後、懇談事項からは、協会賞審査委員会・研究助成委員会の浪岡委員長、国際図書館協力委員会の影山委員長、協会ホームページ委員会の石田委員長の3名にも加わっていただき、拡大常任幹事会としたいとの提案があり、了承された。

(1) 報告事項

1) 会長校会務報告

ア．新規加盟校について

会長校龍谷大学(南)から配布資料(p.5)に基づき、現在、東地区部会に諏訪東京理科大学図書館(10月28日受理)、資料作成段階で間に合わなかったが、西地区部会に大阪青山大学図書館から加盟申込書(11月25日受理)が提出された。これによって2006年度は、東西地区部会共に244校で合計488校になる予定である。尚、まだ、若干の問い合わせがあることが報告された。

イ．未加盟校への勧誘について

会長校龍谷大学(南)から配布資料(p.5)に基づき、10月3日付で加盟案内を送付したことが報告された。

ウ．加盟校への書類等の送付について

会長校龍谷大学(南)から、配布資料(p.5)に基づき、前回常任幹事会以降に加盟大学図書館に送付した書類等について報告された。

エ．会報第124号の刊行について

会長校龍谷大学(南)から配布資料(p.6)に基づき報告が行われ、現在125号(総会号)の刊行準備が行われていることが報告された。

2) 東地区部会報告

東地区部会長校駒澤大学(東)から配布資料(p.7～p.10)に基づき、8月から11月までの東地区部会会務報告が行われた。

3) 西地区部会報告

西地区部会長校久留米大学（熊谷）から配布資料（p.11～p.17）に基づき、8月から11月までの西地区部会会務報告が行われた。

4) 委員会報告

会長校龍谷大学（南）から、配布資料（p.18～p.19）に基づき、三委員会報告が行われた。

また、各委員会に検討をお願いしていた協会活動活性化策並びに委員会の拡充策については、懇談事項で協議を行いたい旨提案がなされ、了承された。

ア．協会賞審査委員会・研究助成委員会報告

イ．国際図書館協力委員会報告

ウ．協会ホームページ委員会報告

5) 協会関連事項報告

ア．国公立大学図書館協力委員会報告

会長校龍谷大学（南）から配布資料（p.20）に基づき、委員会報告が行われた。

イ．国立情報学研究所関係報告

会長校龍谷大学（南）から配布資料（p.21）に基づき、報告が行われた。

ウ．日本図書館協会関係報告

会長校龍谷大学（南）から配布資料（追加資料）に基づき、報告が行われた。

6) その他

ア．第7回図書館総合展フォーラムの後援について

会長校龍谷大学（南）から配布資料（p.22）に基づき、報告が行われた。

イ．2006年度行事・会議予定について

会長校龍谷大学（南）から配布資料（p.23）に基づき、報告が行われた。

(2) 協議事項

1) 2005年度一般会計・特別会計収支状況について

会長校龍谷大学（南）から配布資料（p.25～p.27）に基づき、2005年度一般会計支出状況（11月30日現在）・第66回総会・研究大会収支状況（11月16日現在）について提案説明があった。

特徴点について、一般会計については、収入では、新規加盟校による収入増、第66回総会・研究大会特別会計から残余金の繰入があったこと、支出については、

運営費のうち、通信費が加盟館への配布資料の増による予算超過、協会賞費の支出超過(前年度までは永年勤続表彰の中で処理)、加盟校増による部会交付金の増、名簿刊行費の発行形態の簡略化による支出減があったことが説明された。

また、p.26 に参考資料として決算見込を付けている旨の説明があった。

第 66 回総会・研究大会の収支状況については、これでほぼ確定となるが、参加者数が予想より少なかったことにより収入減となったが、運営上の努力により、最終的に 39,006 円の残余金が生まれ、一般会計に繰り入れることになった。

協議の結果、提案どおり承認された。

2) 2006 年度事業計画について

会長校龍谷大学(寺本)より配布資料(p.28~p.30)に基づき、2006 年度事業計画について提案説明された。

提案にあたり、会長校(寺本)より次年度の事業計画は、事業計画(案)前文に示したように、大学を取り巻く環境の変化の中で協会の役割を再認識し、8月の総会で表明した協会活動活性化の具体策検討方策を念頭に置き、今年度の決算見込みを視野にいれて作成した。その主な観点は、

協会の意義、課題などを示し、次年度の方向性を示した上で事業項目を掲げた。

協会の全体活動を項目ごとに分け、各事業内容の方向を理解しやすくするために事業項目ごとに説明した。

協会委員会活動の支援については、永年勤続表彰制度の廃止を機に協会活動活性化の具体的方策の検討を進める方向を明記した。

特に研究助成の制度拡大検討方向の明示。

協会賞の改善方向。

各地区部会活性化のための活動援助方策

であり、事業計画各項目について説明された。

協議の結果、以下のことが確認された。

第 67 回総会・研究大会の開催について、大会運営に工夫の必要性は認めるが、関連業者との協力体制は過去の経緯もあるので、事業計画としては明記せず、その部分を削除する。今後、会長校と大会当番校で大会運営の工夫について調整する。

協会委員会活動の支援のうちア)については、研究助成委員会の委員構成を協会賞審査委員会との兼務を改め、新たに委員会委員を委嘱することについては異議無く了承された。「研修制度」の内容については、新委員会で検討する。研究助成委員会の新委員の人選は、会長校に一任する。

また、「研修制度」という文言については、新たな制度を加えるという文言にする方向で合意した。

協会委員会活動の支援のうちの工)の海外集合研修に通訳をつけることについては国際図書館協力委員会での検討が必要であり、参加者増をはかる方策について国際図書館協力委員会での検討することとし、明記しない。

協会委員会活動支援活性化策で規程改正等を伴うものについては、常任幹事会、東西合同役員会の議を経て総会に提案し、総会での決定後、速やかに実施する。運用上の改善で対応できるものについては、4月以降に進めていく。

事業計画(案)については、全体として了承され、上記の確認事項を加味し、会長校で修正等を加え、メールによる意見聴取により、臨時常任幹事会を開催し、成案を作成し、東西合同役員会、総会に提案することとする。

3) 第67回(2006年度)総会・研究大会について

会長校龍谷大学(南)から配布資料(p.31)に基づき、説明され、了承された。

また、1月13日に当番校の引き継ぎを予定しているので、細部をつめる旨表明された。

4) 周知文書の取り扱いについて

会長校龍谷大学(南)から配布資料(p.32)に基づき、全加盟館への周知文書の取り扱いについて、依頼文書を全て郵送によることは経費的にも人的にも負担が増えることから、内容によってホームページを活用し周知する方法をとりたいとの提案があり、了承された。

5) 2006年度一般会計・特別会計予算について

会長校龍谷大学(南)から配布資料(p.33~p.34)に基づいて、以下の説明と提案がされた。

予算(案)の作成にあたっては、事業計画(案)の策定方向に従い予算構築をしている。

[一般会計]

収入について

会費は486校とし計上している。

前年度繰越金は、今年度決算で確定した数字をいれることになる。

支出について

通信費については、今年度支出超過になっているが、周知文書の取り扱いを工夫することによって、今年度予算と同額とした。

永年勤続表彰はゼロとなる。

部会交付金は、1校あたり1,000円増額することによって、594,000円の増額とする。

名簿刊行費は、簡略化により300,000円を計上する。

委員会活動費は、研究助成委員会の活動費分として250,000円を増額する。

国公立大学図書館協力費を予算化する（今年度は予備費支出）。

次年度繰越金は、決算段階で決まるもので、予算段階で科目を起こすのは不自然であることから、予備費としてとりあつかいたい。

[特別会計]

基本的には昨年度と同じで、繰り越しになっている部分を増額した。

協議の結果、了承された。

6) その他

1) 委員の交代について

会長校龍谷大学（南）より、早稲田大学旭部長の人事異動に伴い、協会賞審査委員会・研究助成委員会委員の残任期間を早稲田大学の守田部長にお願いしたいとの提案があり、了承された。

また、協議事項2)の審議結果をふまえ、研究助成委員会の再編成については、一度全員退任していただいて、改めて新委員を委嘱するという方法をとることも了承された。

(3) 懇談事項（ここから拡大常任幹事会とし、浪岡、影山、石田各委員長が加わった。）

1) 協会活動の活性化について

各委員長から、活性化策の委員会での検討状況の報告を受けた。

国際図書館協力委員会（影山委員長）

委員会でいろいろ話し合っているが、未だ結論には至っていない。派遣研修の増員や集合研修の期間延長（1週間から2週間に）するとかが話題に上がっている。

集合研修については、モーテンソンセンターのプログラムは2週間であるが、現在は、サービスで1週間にしてもらっているので本来のプログラムにしてはとの話は出ている。若干人数を増やすということもある。

また、予算的には90万円で5人というのは厳しいので、増額を検討している。シンポジウムの運営費についても増額を検討している。

いづれにしても、12月9日に委員会を開催するので、検討結果を報告したい。

協会ホームページ委員会（石田委員長）

予算的には今のままで問題はない。ただ、迷惑メールが増えているので、その対策を進めている。

協会賞審査委員会・研究助成委員会（浪岡委員長）

浪岡委員長より、協会賞・研究助成選考委員会における協会活動活性化の方策について（中間報告）について配布資料（p.37～40）に基づいて、以下の説明が行われた。

基本的に中間報告書に示してあるとおりだが、下記に委員全員が合意した事項について来年度の改善策に盛り込んでいただきたい。他の項目も継続して種々の審議機関で検討願いたい。

また、本中間報告をもって一応の委員会審議を終わり、最終報告としていただきたい。

委員会合意事項

[協会賞関係]

ア．「研究助成を受けたものは、協会賞の対象としない。」という申し合わせの撤廃（要件：申し合わせ事項の撤廃と新たな申し合わせを要する）

イ． 受賞対象の拡大

受賞対象年度の拡大（要件：規程第2条の改正を要する）

ウ．募集期間の拡大（要件：会長校との協議を要する）

[研究助成関係]

ア．申請資格の拡大

申込資格を、従来の個人研究と共同研究の他に、加盟図書館単位および複数の加盟図書館の共同研究に拡大する（要件：規程第4条の改正を要する）

イ．募集期間の拡大（要件：会長校との協議を要する）

各委員長からの報告を受けて協議の結果、以下のように取り扱うことになった。

協会活動活性化策として、派遣研修および集合研修のあり方については、次回の国際図書館協力委員会（12月9日開催）の場で検討を継続する。

協会賞および研究助成については、「中間答申」内容を尊重する。

協会賞については、原則的に従来 of 枠組みを踏襲することとし、「申し合わせ事項」の一部撤廃は、常任幹事会で審議し、東西合同役員会に提案し、合意が得られれば具体化および実施をする。また、規程改正については、同様に常任幹事会、東西合同役員会の合意を得て総会に提案し、決定後、速やかに実施することとする。

研究助成については、活性化策を実施するために、現行の協会賞審査委員会と研究助成委員会の委員兼務を改め、研究助成委員会委員を新たに選考（重複を妨げない）し、規程改正を含む具体策を新メンバーで検討を開始する（東西合同役員会 [3 月] で了承を得て、4 月開始）。委員の選考に関しては会長校に一任する。

総会で規程改正が承認されれば、総会后、速やかに執行する。

2) 日本図書館協会大学部会部会長について

会長校龍谷大学(寺本)から、現在の部会長校の一橋大学より、配布資料(別紙)のとおり、ローテーションで後任は私立大学が部会長を務める番になるのでお決めいただきたいとの依頼があり、この取り扱いについて協議願いたい、との提案があった。

提案について協議の結果、以下のとおり取り扱うことになった。

ルールが決まっているのであれば、協会で引き受けざるを得ないが、会長校の任期と1年ずれていることから、当該年度会長校が引き受けることとする。(2006年度龍谷大学、2007年度中央大学)

大学図書館部会の大きな行事は、「大学研究集会」であるが、現在、国公立大学図書館協力委員会でシンポジウムを開催していることから、内容が重複することになるので、国公立大学図書館協力委員会の常任幹事会で意見出しを、早稲田大学を通じて行う。

1年任期や研究集会のあり方についての問題点があることを含め、来年早々に一橋大学に受諾の方向で連絡を行うこととする。

以上

2005年度 第2回 常任幹事会出席者名簿(2005.12.2)

役員校	大学名	職名	氏名
会長校	龍谷大学	センター長 事務部長 深草図書館課長 [事務局] [事務局]	松井賢一 寺本憲夫 南照宣 久世正友 石田義憲
東地区部会長校	駒澤大学	図書館長 副館長 運営課長 運営課長補佐 情報企画係長	林達也 東良典 櫻井英賢 鈴木大然 秋沢久美子
西地区部会長校	久留米大学	図書館長 課長 係長	西土純一 熊谷まゆみ 北村泰治
東地区監事校	早稲田大学	事務部長 総務課長	守田芳秋 中元誠
西地区監事校	南山大学	課長	栗山義久

役員校	大学名	職名	氏名
協会賞審査委員会・ 研究助成委員会 委員長	実践女子大学	図書館事務部 次長	浪岡正継
国際図書館協力委員 会委員長	関西大学	図書館運営課長	影山幸子
協会ホームページ委 員会委員長	南山大学	図書館事務課 電子情報係	石田信